

“運命のシャフト”

見つかる!

790回転に収まるという驚くほどの安定感で、スピン量自体が多めなので高弾道でキヤリが出せます。

一通りの計測テストを終えた鈴木プロ、LIN-Q レッド EXに感じて、ヘッドの重さが感じられて、ヘッドの向きが分かるので安心して振れるシャフトです。クラブの真ん中あたりを中心にシャフト全体がしなるのは長所、普段の感覚、H 348、前後の感覚、手振しても、切り返してしなり過ぎるということがなく、インパクトにしなり戻りがびつたりなく、打ったボールは、スピン量が2700~2

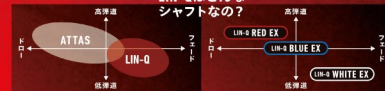
ヘッドの重さを感じず、心地よい、振りがいい、打ちやすい、自分の実力に合わせて、HSで良さそうです。HS48m/sで平均308.6ヤード(キャリー280ヤード)をマーク

全体がしなるって、タイミングが合いやすい



鈴木悠介 プロ
1990年生まれ、千葉県出身、千葉県立高校卒業後、2016年プロ入り、小笠のクラブ特選で振打解を多数選出、ギアに精通する

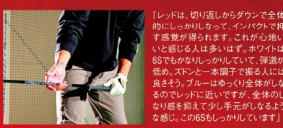
USTマミヤが本格志向ゴルファー向けに開発するグローバルブランド“LIN-Q”。日本では2023年に中元調子のブルー EXが発売され、昨年は低スピンのホワイト EXが登場。そして、この春(4月24日)に“LIN-Q レッド EX”が誕生。3モデル中、最もしなやかな振心地で、タイミングが合いやすいシャフトだという。実際の振り感、弾道の高さ、強さ、つかまり度合いなどを鈴木悠介プロとチェックしていった。



LIN-QはPGAツアープレーヤーを顕にスタートしたシャフトで、R-フィッティングが約1.65mmに、今年のマスターズで80に入ったD・コンラッドがドライバーにキャビティ、3Wと7WにLIN-Qを入れるなど後方に使用率を伸ばしている。同社の人気シャフト・ATTASシリーズと比べると、LIN-Qシリーズは全体として、つかまり過ぎず弾道を打ちやすいゾーンに展開。今回のレッド EXはそのゾーン内で、高く上がりやすく遠くに球がのる性能を持つ、しなやかに振ってストレートからドローで飛ばしたいゴルファーは、とくに注目だ

TEST 01 6Sで赤・白・青の順に試打

しなり感が心地よいレッド



「レッドは、切り返しがダウンで全体軸にしっかりとしなるって、インパクトで押す感覚が得られます。これが心地よいと感じる人は多いはず。ホワイトは、6Sでもかきしなかに振っていて、弾道が低め。グリーンと一本調子で振る人には良さそう。ブルーは、切り返しが全体がしなるのでレッドに近いのですが、全体のしなり感を抑えて少し手元がしなるような感じ。この6Sもしっかり振っています」

「レッドはシャフトの真ん中を中心に全体がしなる」



赤一本の赤い薔薇の花言葉は「運命の人」→LIN-Q RED EXが「運命の一本」となるかも!!

タイミングが合いやすく、押す感覚が出るので「少ししなるか」というショットも耐えてくれる。万人までではないけれど、レッドが合う人はかなり多いです」
6Sに続いてレッド EXの5Sをテスト。6Sのスピード感のまま打ちして、打ち出し角が平均13・4度になり、弾道が高くなり過ぎず、しなりヘッドの重みが強まり、しなりの感覚も変わることで、HS 45%以上ならやはり6Sです。HSを42・43%に落とすと、気持ちいいしなり感が戻ってきます。インパクトのところでヘッドがパンクと出てボールを押し込んでくれる、つかみやすかつまった球が揃ったし、弾道頂点(平均)は理想的な33・6メートルの高さで、飛距離は259・8ヤード。

TEST 02 レッドの5Sを試打

HS42~43m/sで理想的な高弾道!



「アマチュアの方に多いHS42~43m/sで打ってみただけで、シャフト全体がしなる振りが心地よく、しっかり振ります。ショット数は平均ボール初速63.9m/s、スピン量が2490回転。理想的な高弾道です。ドライバーが打ちやすいですが、つかまり過ぎないのは、さすがアスリート志向のLIN-Qブランドです」

UST マミヤ
LIN-Q [リンク レッド EX]
RED EX